

南草津にふさわしいウォーカブルな 街路空間と巡礼ルート作成

景観・環境デザイン研究室

泉雄大

澤愉太

木村智

本日発表の目次

1. 序論

- 1.1 背景
- 1.2 位置付け・目的
- 1.3 事業の目的

2. 「小さな風景」の定義について

- 2.1 「小さな風景」について

3. 「潜在的危険」の定義について

- 3.1 「潜在的危険」について

4. ワークショップの概要と結果

- 4.1 ワークショップ概要
- 4.2 ワークショップ結果

5. 分析と考察

- 5.1 「小さな風景」の定義による分類
- 5.2 「潜在的危険」の定義による分類
- 5.3 アンケート結果

6. 結論

- 6.1 まとめ
- 6.2 今後の活動

1.1 背景

背景 1

近年、ウォーカブルなまちづくりへの関心の高まっている

- ・ J. Gehl : 人間を中心に街を作ることによって、歩行者が増加し、貴重な交流やレクリエーションの機会が自然と増える。結果、まちが持続的で、安全かつ、健康的な「人間の街」となる*1

背景 2

まちには目的無く作られたが、居心地の良く感じるモノ・場所がある

- ・ C. Alexander : 名づけることはできず、意識的に得ようとするとうまく消えてしまうが、部屋、建物、街などが、生氣を増し、輝きをもつようそがある*2

背景 3

街路の魅力进行评估の際、注意配分が低いモノの魅力を高く見積もる場合がある

- ・ 注意配分と魅力あるものを見つける能力との関係に関する研究*3

*1 J.Gehl:人間の街, 鹿島出版会: pp.46-49,2014.3

*2 C.Alexander:時を超えた建設の道,鹿島出版会,pp.

*6 佐藤亮,佐藤大介,野本弘平:注意配分と魅力あるものを見つける能力との関係,第32回ファジィシステムシンポジウム講演論文集,pp.603-606,2016.8

1.2 位置付け・目的

位置付け

「見落とし度合い」を考慮し、歩行意欲向上を目的とした街路評価を現地にて行った

画像にて街路評価を行う既往研究*4

目的:「歩きたいと思わせる条件」と「経路選択時に重視する要因」の特定

方法:事前アンケートとモニタージュ画像による街路評価の比較

結果:アンケート結果と異なり、モニタージュ画像では「車の侵入」等が影響することが判明した

現地にて街路評価を行う既往研究*5

目的:一般市民の民意をまちづくり反映させる為の手法の提案

方法:実際の街路にて提案した街路評価を行い、評価対象を分析する

結果:提案手法から記述内容を分類・集計すると、ソフト面の景観整備も必要であることが判明した

注意配分と魅力発見に関する既往研究*6

目的:注意配分と魅力あるものを見つける能力との関係について検討

方法:実際の街路にて注意配分と魅力に関する項目を含む街路評価を行う

結果:街路の魅力を評価する際、注意配分が低いモノの魅力を高く見積もる場合があることが判明した

目的

歩行意欲向上を目的とし、街路評価にて「小さな風景」、「潜在的危険」の有効性を検証

*4 姜気賢,有馬隆文:モニタージュ画像を用いた被験者実験による歩行者の街路評価要因に関する研究,日本都市計画学会都市計画論文集,vol.50,no.1,pp.54-66

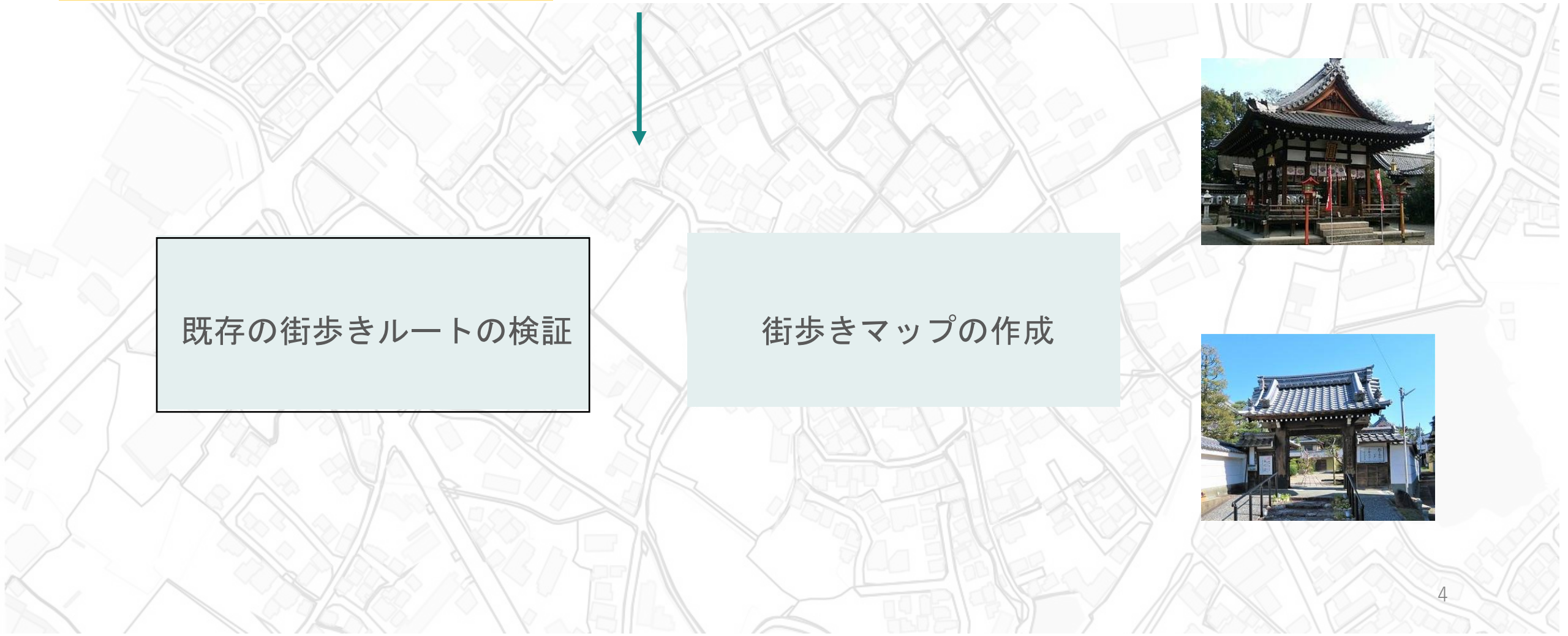
*5 古賀誉章,高明彦,宗方淳,小島隆矢,平手小太郎,安岡正人:キャプション評価法による市民参加型景観調査,日本建築学会計画系論文, vol.517,pp.79-84,1999.3

*6 佐藤亮,佐藤大介,野本弘平:注意配分と魅力あるものを見つける能力との関係,第32回ファジィシステムシンポジウム講演論文集,pp.603-606,2016.8

1.3 事業の目的

事業の目的

市民にとって歴史資源などのまち独自の資源・ストックに愛着のもてるウォーカブルな歩行空間を提案すること。



既存の街歩きルートの検証

街歩きマップの作成



2.1 「小さな風景」について

公共空間に存在する気になるモノ・場所に関する既存研究の共通点をまとめる

【定義】 **見落としていたが、見つけて楽しい気持ちになるモノ・場所**

「無名の質」

C.Alexander

- ・ 特定の場所で特定の姿で**出現する**ので、二度と同じ形はとらない
- ・ **移ろいやすさ**を味わい、**楽しむ**すべがある
- ・ その形態、色彩、目的への適合だけでなく、その**背景・歴史**を含める

『時を超えた建設の道』 1993年10月発行

「物件」

赤瀬川原平, 藤森照信ら

- ・ 発見者に**発見する**喜びをもたらせるもの
- ・ バイトを雇って見つけても意味がなく、**自分で見つける**ことが楽しい
- ・ 思想や意図が込められていない、**実用からズレた**部分

『路上観察学入門』 1991年12月発行

「小さな風景」

乾久美子

- ・ **季節によって発見される**「小さな風景」が異なる
- ・ 人を引付ける**魅力的**空間
- ・ 撮影数された写真の内、小さな風景と認められたものは、**12.6%程度**

『小さな風景からの学び』 2014年4月発行

「喜び」

J.Gehl

- ・ 歩きたくなる街の条件
- ・ 人間の視覚特性にあった高さがあり、**見て楽しむ**もの
- ・ 視覚の変化、複雑で新しい眺め、**その場所の特徴**を活かす

『人間の街』 2014年3月発行

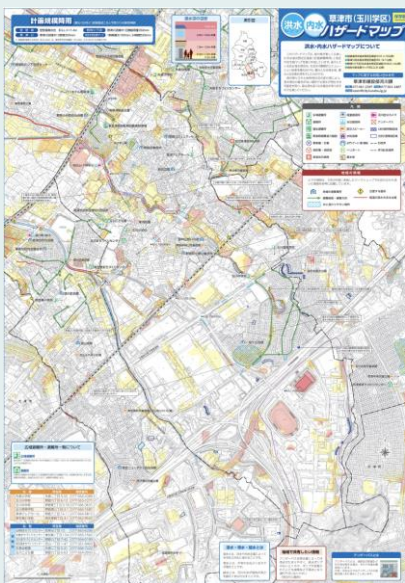
3.1 「潜在的危険」について

行政等が提示している危険箇所は、過去の発生場所等の事実に基づいて作成

【定義】 見落としていたが、想定する被害度合いが大きいモノ・場所

洪水

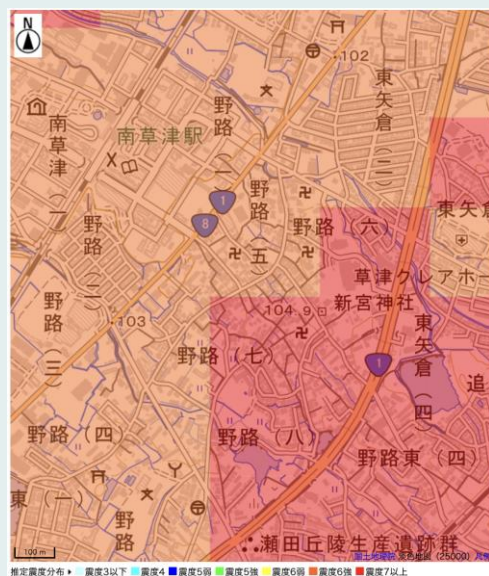
滋賀県・草津市



草津市, 2021年発行

地震

滋賀県・草津市



滋賀県, 2014発行

交通事故

滋賀県警察



滋賀県警察, 2024年2月分

犯罪

滋賀県警察



滋賀県警察, 2023年11月-翌年2月分

4.1 ワークショップ概要

まち歩き・撮影→評価→発表と投票

対象エリア



場所

滋賀県草津市玉川学区内
(右図オレンジ色網掛け部分)

特徴

- ・南草津ビジョン
- ・「ウォーカブルな健幸都市」を目指す社会実験
- ・車による移動が多い
- ・旧東海道がエリア内を通る
- ・新宮神社、子守地蔵尊

*7

ワークショップ各回概要

第1回：「小さな風景」発見WS

開催日時：2023/10/28 10:00-12:00

参加人数：19人(地域住民:3人 学生:16人)

班の構成：A班:7人 B班:8人 C班:4人

第2回：「危険箇所」発見WS

開催日時：2023/12/2 9:00-12:00

参加人数：16人(地域住民:6名 学生:10人)

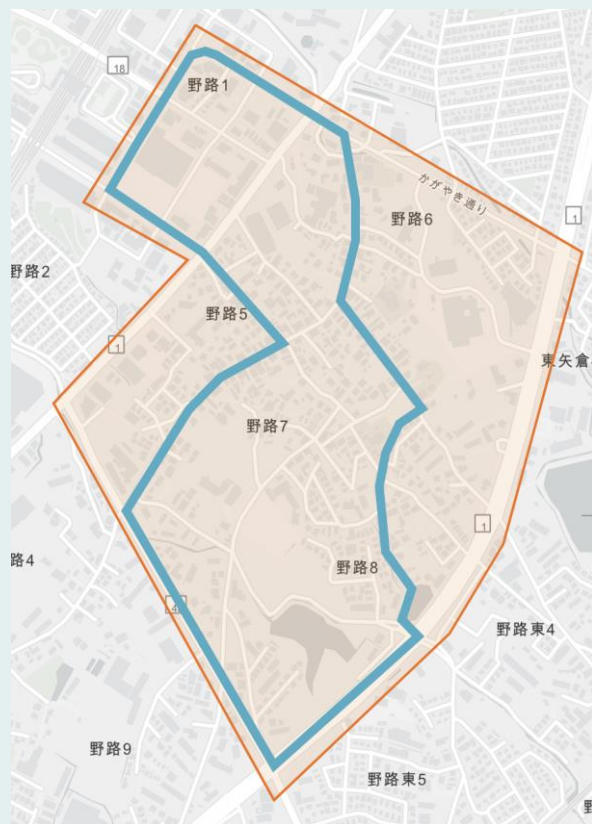
班の構成：A班:5人 B班:7人 C班:4人

*7：対象エリアの地図を元に筆者が作成

4.1 ワークショップ概要

エリアに合わせてコースを3分割し、それぞれの班で実験を行う

対象エリア

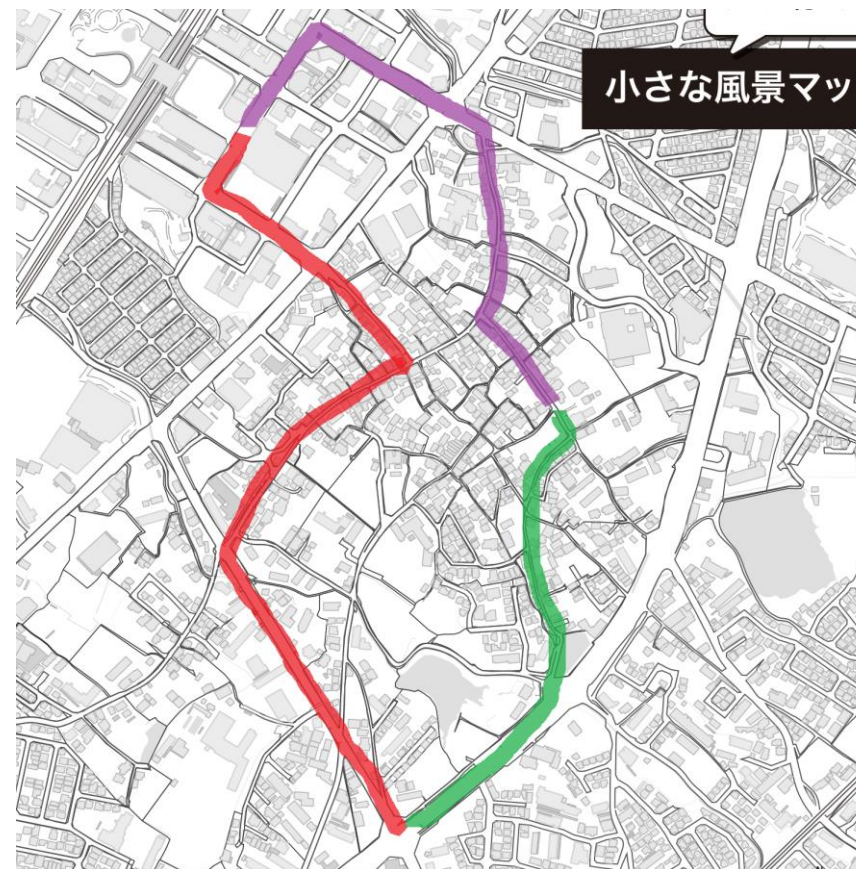


場所

滋賀県草津市玉川学区内
(右図オレンジ色網掛け部分)

特徴

- ・ 南草津ビジョン
- ・ 「ウォーカブルな健幸都市」を目指す社会実験
- ・ 車による移動が多い
- ・ 旧東海道がエリア内を通る
- ・ 新宮神社、子守地蔵尊



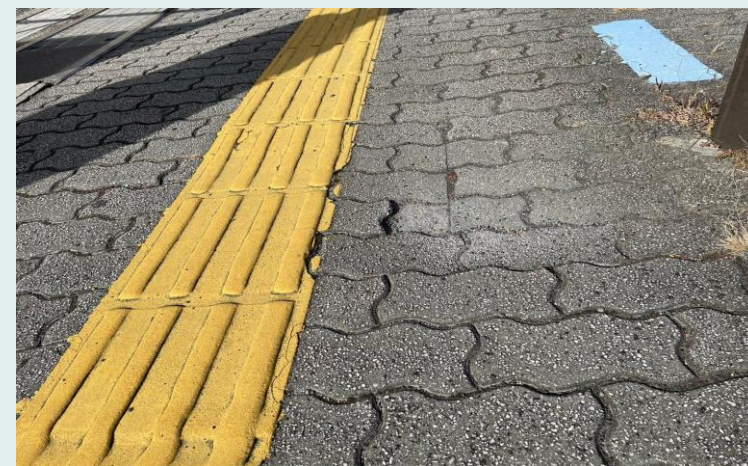
- Aコース
- Bコース
- Cコース

4.2 ワークショップ結果

「小さな風景」



「潜在的危険」



上記写真は全て第1・2回WSにて参加者の方々が撮影した写真

結果例：小さな風景（平均順位が一番高いモノ）



19 枚目 // 位

「いいね👍」と思った理由

工夫されてる
とひだしぼうやほ良川に
マモすぎる

かなり思う 思う 少し思う 思わない

①楽しい気持ちになる 1 | 2 | 3 | ④

② 1 | 5 | ⑩ | 30 | 60分程度 見ていたい 滞在したい

③ 日頃の見落とし度合いが 小 | 中 | ⑧ | 特大

2 枚目 2 位

「いいね👍」と思った理由

117モと違う表情
でリア感がある。

かなり思う 思う 少し思う 思わない

①楽しい気持ちになる ① | 2 | 3 | 4

② ① | 5 | 15 | 30 | 60分程度 見ていたい 滞在したい

③ 日頃の見落とし度合いが 小 | 中 | 大 | 特大



結果例：小さな風景（平均順位が一番低いモノ）



6枚目 21 位

「いいね👍」と思った理由
エレベーターの合え2階の
あちから階段
5分階段

かなり思う 思う 少し思う 思わない

①楽しい気持ちになる 1 | 2 | 3 | ④4

②① 5 | 15 | 30 | 60分程度 見ていたい 滞在したい

③日頃の見落とし度合いが 小 | 中 | 大 | 特大

5枚目 15 位

「いいね👍」と思った理由
丁字路とオの標識が
親切

かなり思う 思う 少し思う 思わない

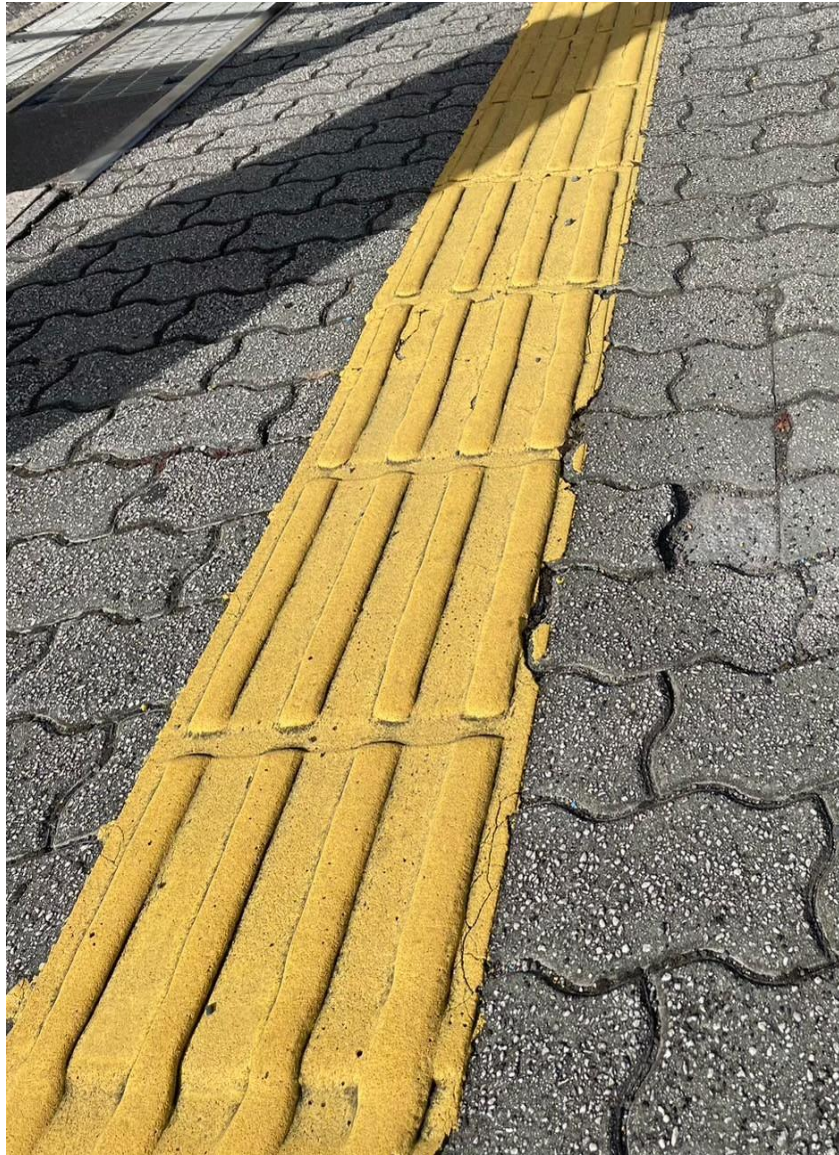
①楽しい気持ちになる 1 | 2 | 3 | ④4

②① 5 | 15 | 30 | 60分程度 見ていたい 滞在したい

③日頃の見落とし度合いが 小 | 中 | 大 | 特大



結果例：潜在的危険（平均順位が一番高いモノ）



11枚目	①位
危険の種類	治安 交通事故 災害 転倒 ()
想定する危険の内容 (例: 景観をそこねる、不審者と遭遇等)	インターロー、キングの歩道のへこみで 車倒れる。バビーカーが通りにくい
「危険 ▲」と思った理由	高齢者、バビーカー、車イスの 通行が危険
近づきたくない度合い	<input type="checkbox"/> 絶対に近づきたくない <input checked="" type="checkbox"/> 近づきたくない <input type="checkbox"/> あまり近づきたくない <input type="checkbox"/> 気にしない
想定する事故・事件の被害度合いが、小 中 大 特大	特大
日頃の見落とし度合いが、小 中 大 特大	特大

1枚目	②位
危険の種類	治安 交通事故 災害 転倒 ()
想定する危険の内容 (例: 景観をそこねる、不審者と遭遇等)	チカー
「危険 ▲」と思った理由	暗く危険
近づきたくない度合い	<input type="checkbox"/> 絶対に近づきたくない <input type="checkbox"/> 近づきたくない <input checked="" type="checkbox"/> あまり近づきたくない <input type="checkbox"/> 気にしない
想定する事故・事件の被害度合いが、小 中 大 特大	特大
日頃の見落とし度合いが、小 中 大 特大	特大

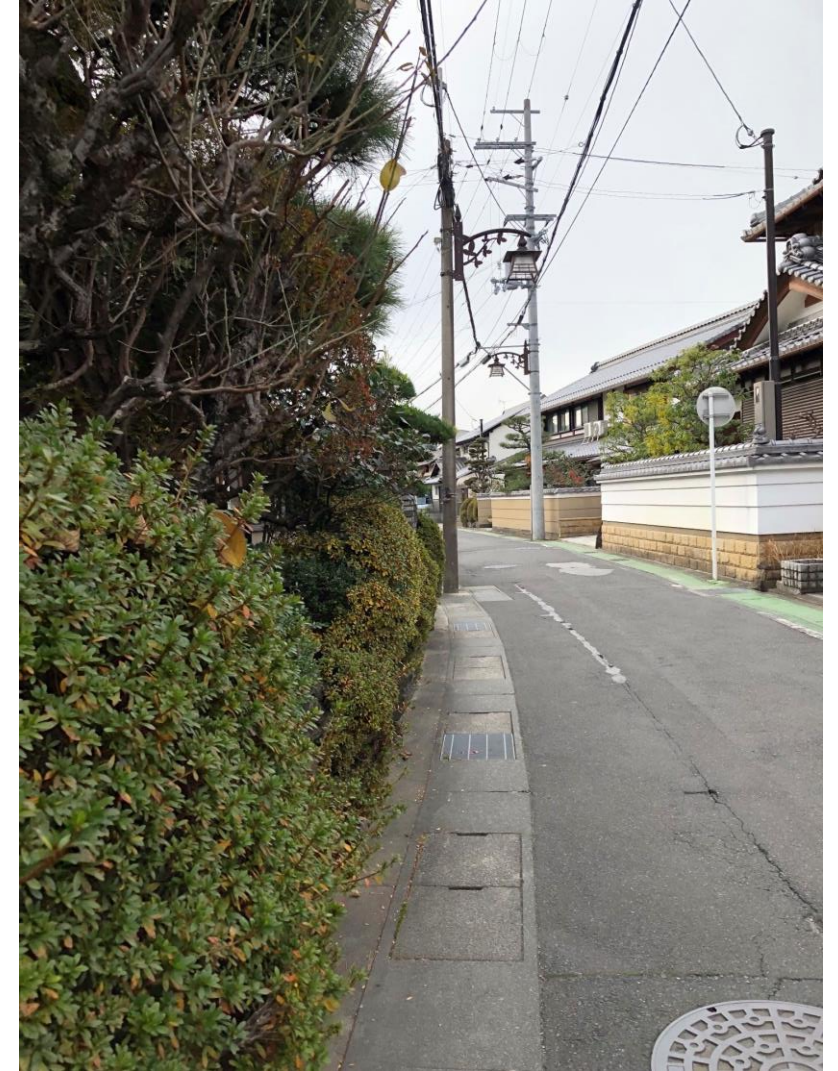


結果例：潜在的危険（平均順位が一番低いモノ）



9 枚目	17 位
危険の種類 治安 交通事故 災害 転倒 ()	
想定する危険の内容 (例: 景観をそこねる、不審者と遭遇等) 歩行者や自転車の転倒。	
「危険」と思った理由 道路と駐車場との間の境界ブロックの 段差があり、でぼっている部分で高齢者 や自転車がつまずくから。	
絶対に近づきたくない	<input type="checkbox"/>
近づきたくない	<input type="checkbox"/>
近づきたくない度合い	<input checked="" type="checkbox"/> あまり近づきたくない
	<input checked="" type="checkbox"/> 気にしない
想定する事故・事件の被害度合いが、(小) 中 大 特大	
日頃の見過ごし度合いが、小 中 大 (特大)	

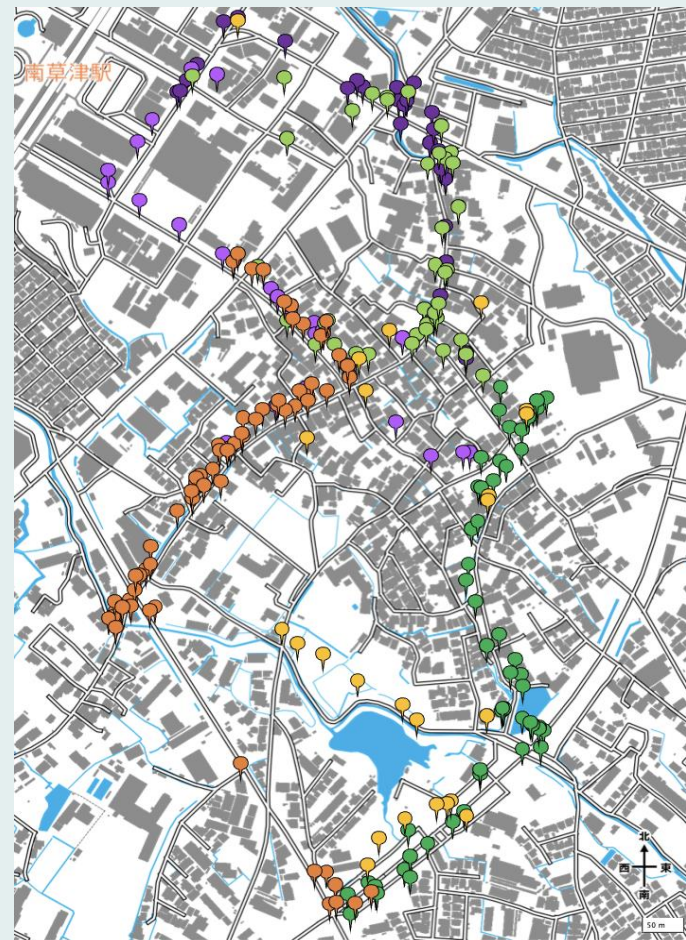
4 枚目	15 位
危険の種類 治安 交通事故 災害 転倒 (ケガ)	
想定する危険の内容 (例: 景観をそこねる、不審者と遭遇等) 木がささり、ケガをす。	
「危険」と思った理由 家の庭の木が道路側に出ており、通学 する子供の顔あたりに木があたり、切り傷 を伴うかもしれないから。	
絶対に近づきたくない	<input type="checkbox"/>
近づきたくない	<input type="checkbox"/>
近づきたくない度合い	<input checked="" type="checkbox"/> あまり近づきたくない
	<input type="checkbox"/> 気にしない
想定する事故・事件の被害度合いが、(小) 中 大 特大	
日頃の見過ごし度合いが、小 中 大 (特大)	



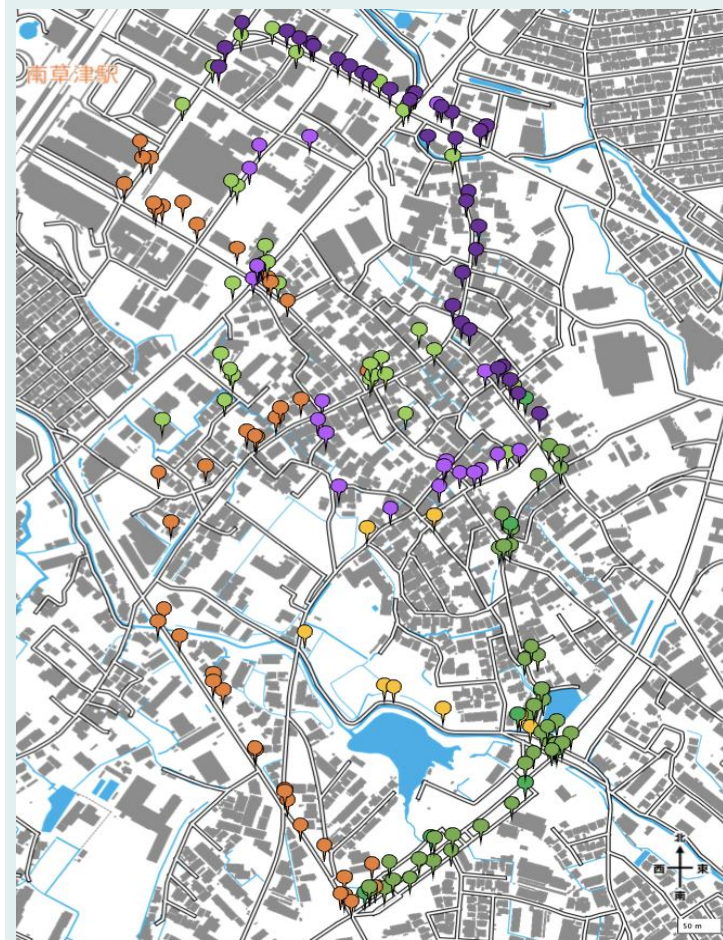
4.2 ワークショップ結果

対象範囲から「小さな風景」が482個、「潜在的危険」が213個発見された

「小さな風景」



「潜在的危険」



- A班往路に発見した箇所
- A班復路に発見した箇所
- B班往路に発見した箇所
- B班復路に発見した箇所
- C班往路に発見した箇所
- C班復路に発見した箇所

5.1 「見落としし度合い」, 「楽しい気持ちになるか」による分類

「楽しい気持ちになる」

かなり
思う



思う



少し
思う



思わ
ない



小

中

大

特大

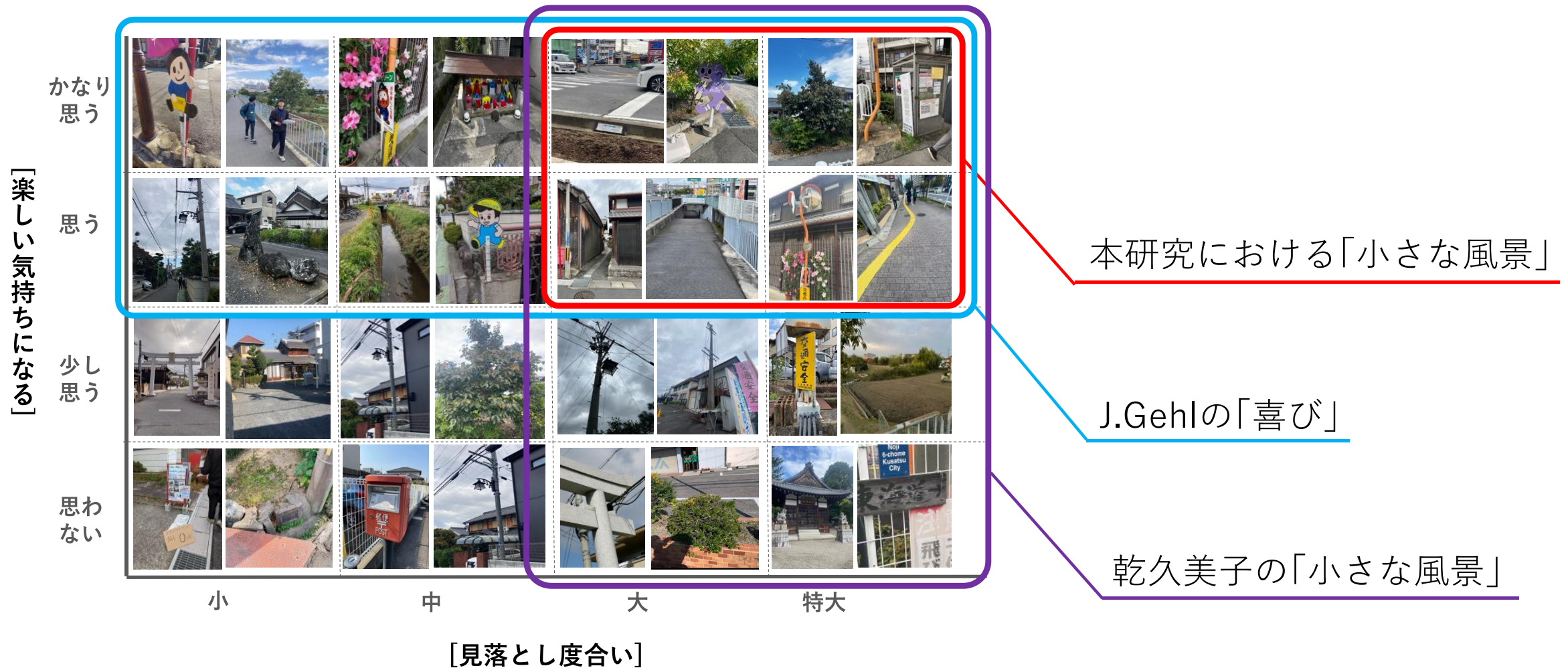
■ 見落としし度合いに関する凡例

- 小 : 気がつく
- 中 : 注意すれば気がつく
- 大 : 気が付かない可能性大
- 特大 : 気が付かない

[見落としし度合い]

5.1 「見落としし度合い」, 「楽しい気持ちになるか」による分類

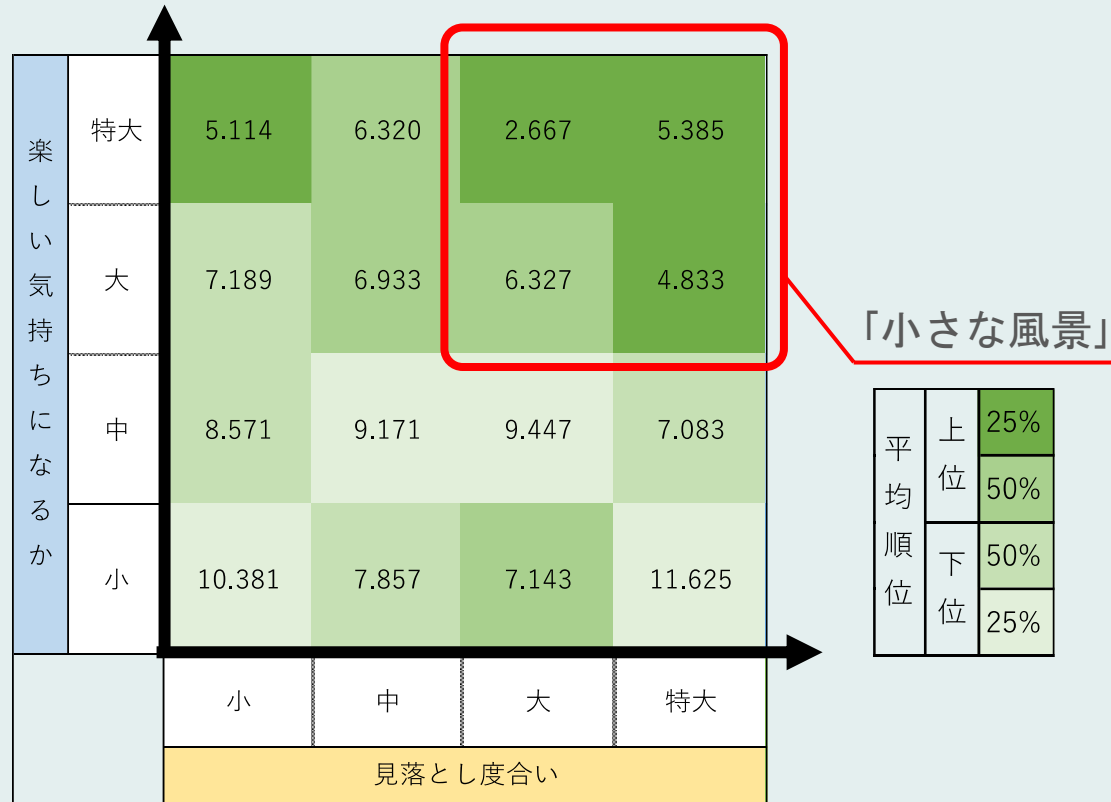
「小さな風景」の定義外の撮影箇所は、定義作成で用いた別の概念に含まれる



5.1 「見落としし度合い」, 「楽しい気持ちになるか」による分類

「小さな風景」の定義に当てはまる→好みの平均順位が高い場合が多い

「小さな風景」の定義と好みの平均順位の関係



好みの平均順位の算出方法

見つけた全ての「小さな風景」に, 好みの順番に順位をつける

「見落としし度合い」と「楽しい気持ちになるか」による分類ごとに発見された「小さな風景」の順位の和を取る

足し合わせた数字を, その分類に含まれる「小さな風景」の数で割る

例. 「見落としし度合い」と「楽しい気持ちになる」が共に「大」で, その分類には3つの「小さな風景」がある(2位, 4位, 8位)

平均順位(大と大) = $(2 + 4 + 8) \div 3 = 4.666$ 位

5.2 「見落としし度合い」, 「想定する被害度合い」による分類

「想定する被害度合い」

特大



大



中



小



小

中

大

特大

「見落としし度合い」

想定する事故・事件の被害度合いに関する凡例

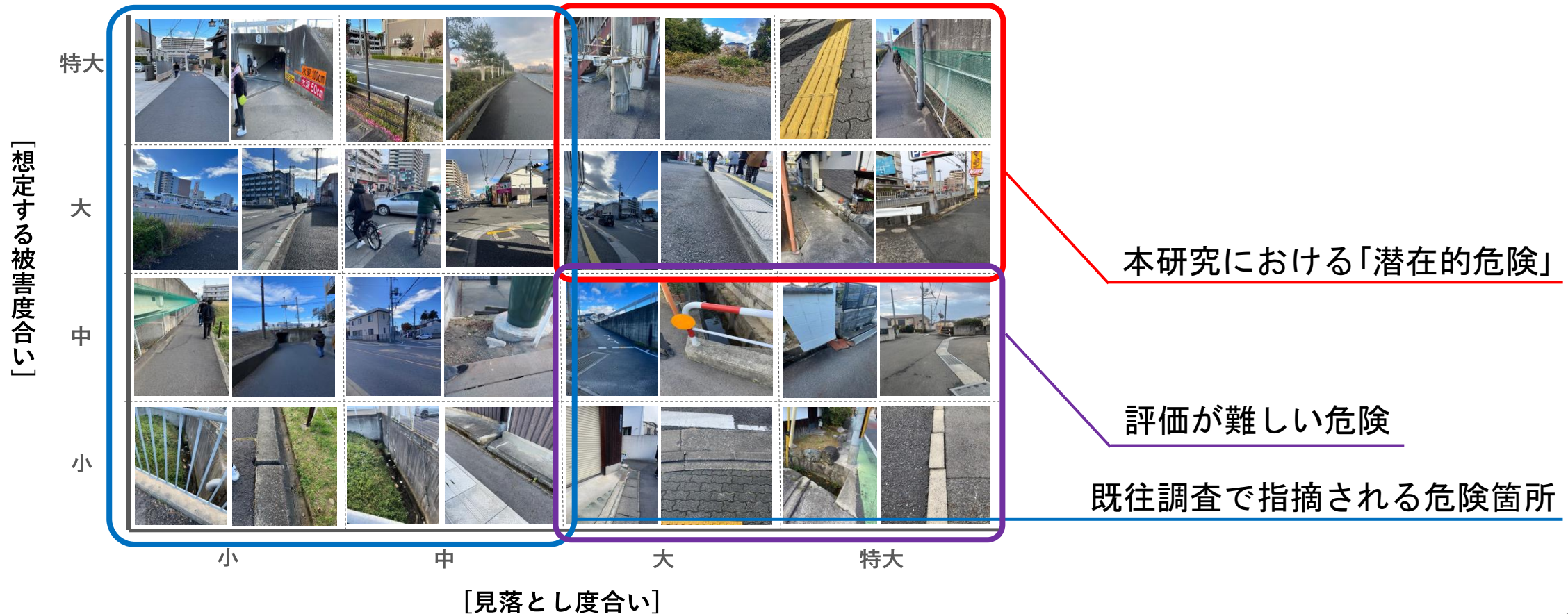
- 精神的な被害
 - 小 : 気にならない
 - 中 : 少し不快
 - 大 : 不快
 - 特大 : ト라우マに残る
- 身体的な被害
 - 小 : 自分で治療可能
 - 中 : 通院による処置が必要
 - 大 : 入院による処置が必要
 - 特大 : 死亡または重篤な障害が残る
- 災害による被害
 - 小 : 修繕可能な物損や現地で治療可能な軽傷者が出る
 - 中 : 修繕困難な物損や通院が必要な怪我人が出る
 - 大 : 修繕不能な物損や入院が必要な怪我人が出る
 - 特大 : 修繕不能な大規模な物損や死傷者が多数出る

5.2 「見落としし度合い」, 「想定する被害度合い」による分類

参加者の声：「自分が危険と思う場所でも人による」や「人によって危険と感じる場所が異なる」



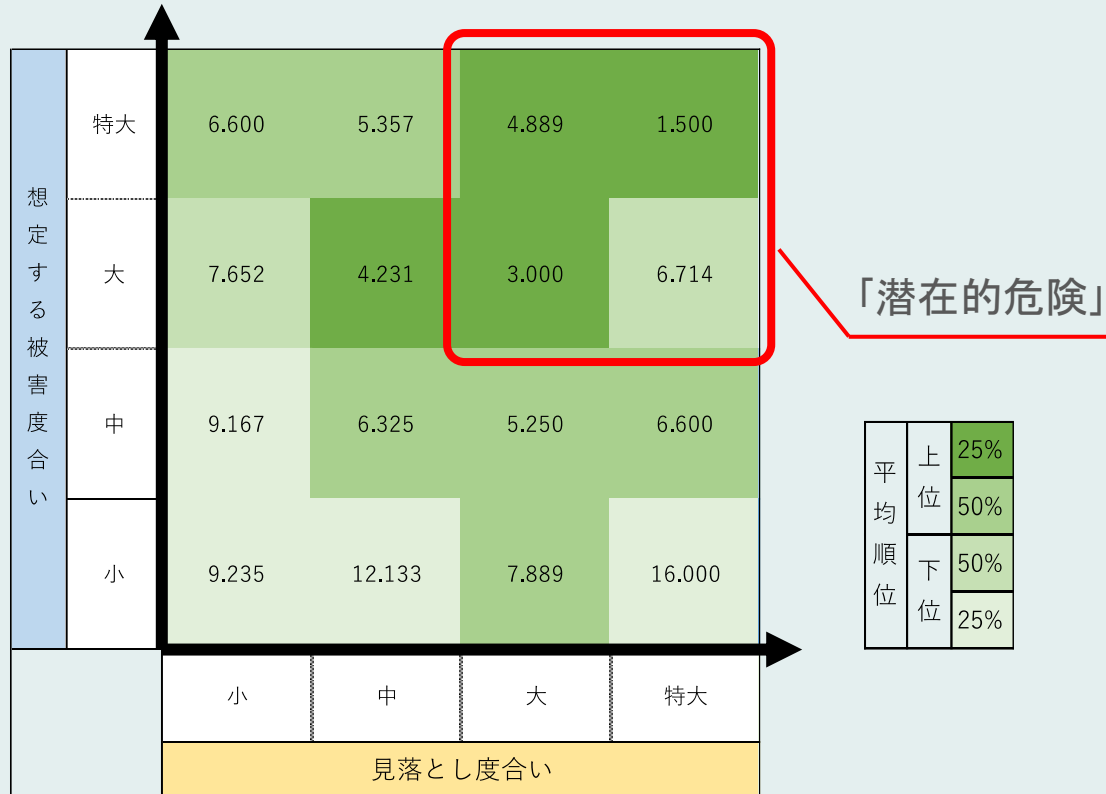
「想定する被害度合い」からは評価が難しい危険箇所がある



5.2 「見落としし度合い」, 「想定する被害度合い」による分類

「潜在的危険」の定義に当てはまる→危険と感じる平均順位が高い場合が多い

「潜在的危険」の定義と危険と感じる平均順位の関係



危険と感じる平均順位の算出方法

見つけた全ての「潜在的危険」に、危険と感じる順番に順位をつける

「見落としし度合い」と「想定する被害度合い」による分類ごとに発見された「潜在的危険」の順位の和を取る

足し合わせた数字を、その分類に含まれる「潜在的危険」の数で割る

例. 「見落としし度合い」と「想定する被害度合い」が共に「大」で、その分類には3つの「潜在的危険」がある(2位, 4位, 8位)

平均順位(大と大) = $(2+4+8) \div 3 = 4.666$ 位

5.3 アンケート結果

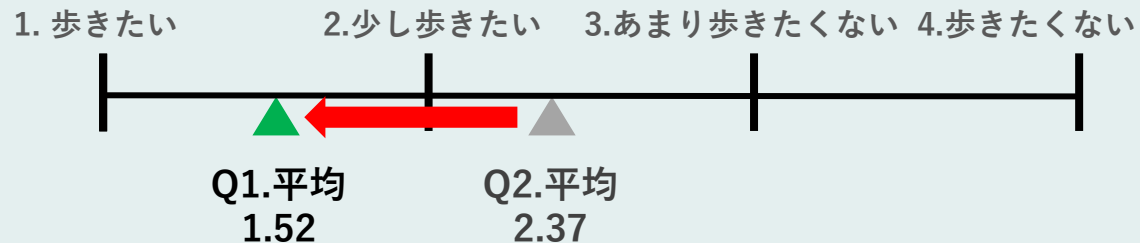
参加者の声：「想像以上に、まちに面白い点が隠されている」や「認知した危険を今後避けて歩きたい」

「小さな風景」や「潜在的危険」を探すことで歩行意欲の向上に繋がると推測できる

「小さな風景」と歩行意欲に関するアンケート

Q1. WSの参加前は、
日常的にまちを歩きたいと思っていましたか？

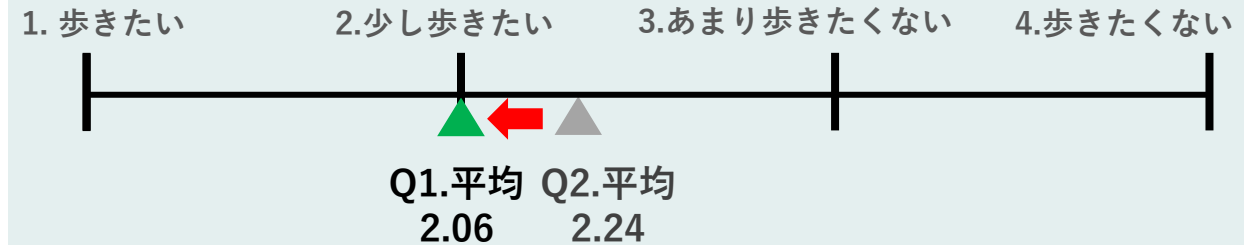
Q2. 本日、小さな風景を認識した今、
WS前の日常に比べて街を歩きたいですか？



「潜在的危険」と歩行意欲に関するアンケート

Q1. WSの参加前は、
日常的にまちを歩きたいと思っていましたか？

Q2. 本日、危険箇所を認識した今、
WS前の日常に比べて街を歩きたいですか？

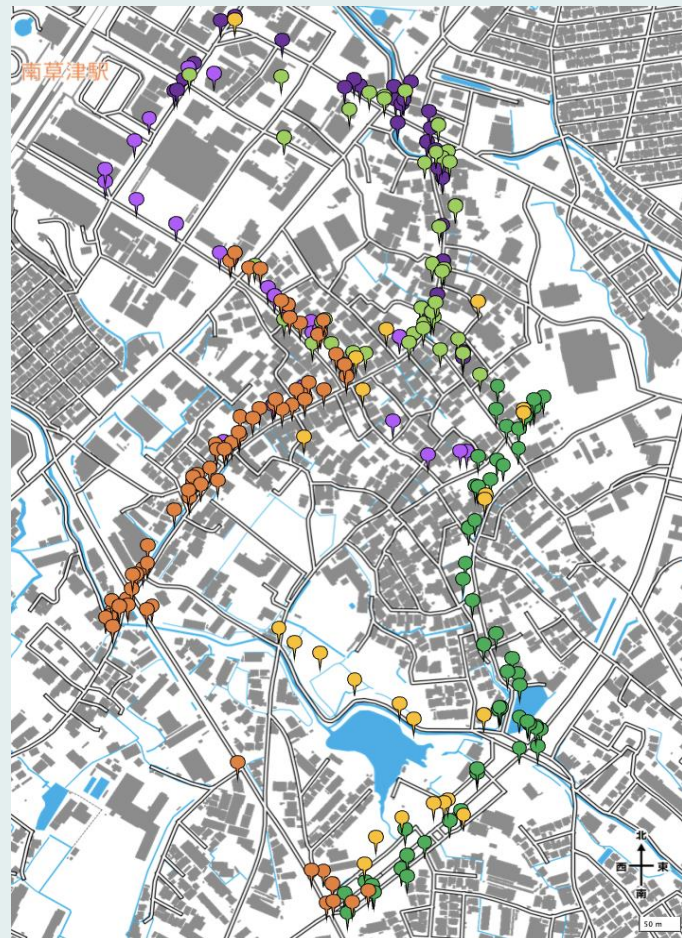


注) Q1・2平均は「選択肢(1.歩きたい~4.歩きたくない)を1~4とした際の、回答者の総和÷回答者数」で算出

6.1 まとめ

既存街歩きルート of 検証・評価

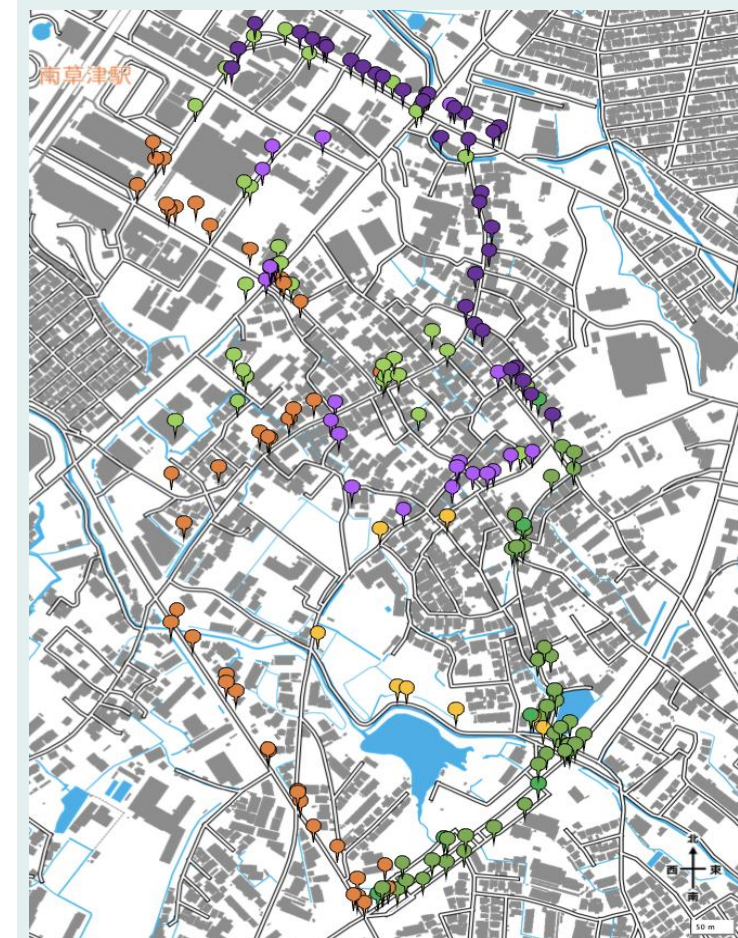
「小さな風景」



既存街歩きルート



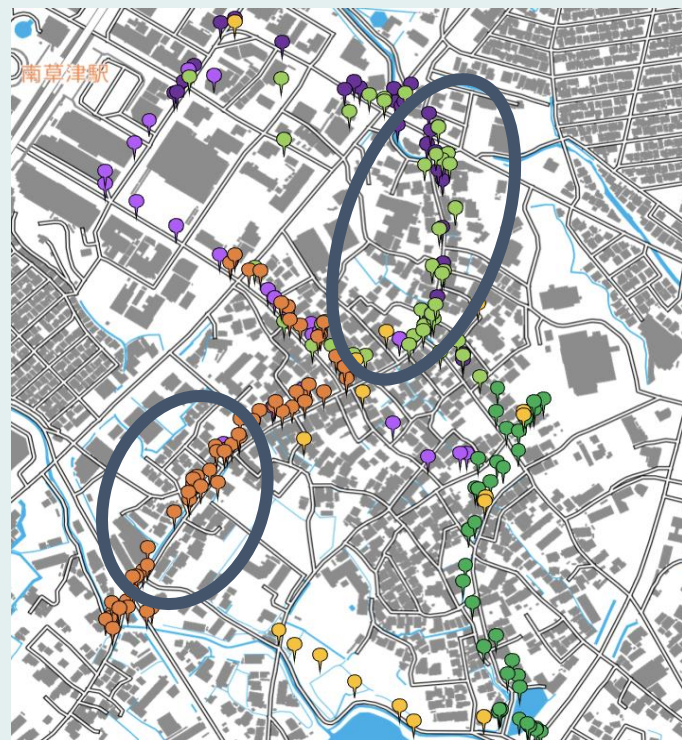
「潜在的危険」



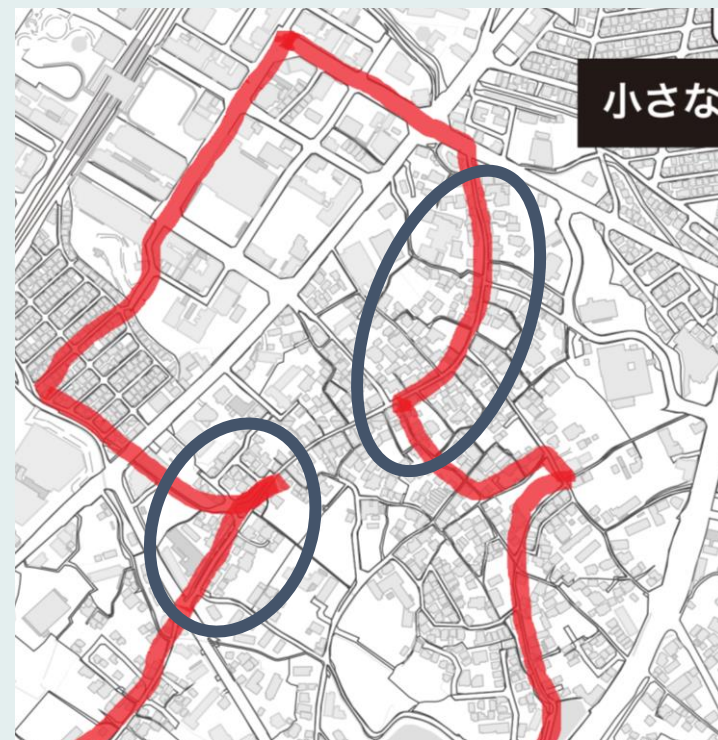
6.1 まとめ

既存街歩きルート of 検証・評価

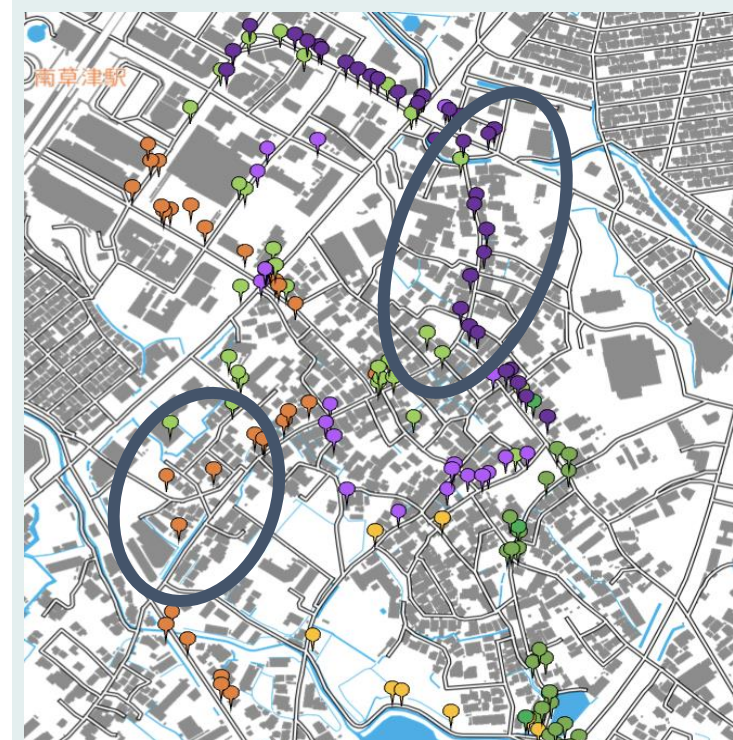
「小さな風景」



既存街歩きルート



「潜在的危険」

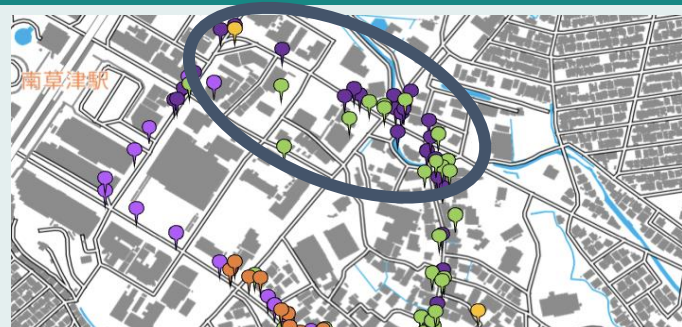


地区を渡る中山道の○のルートは喜びや楽しさ、魅力的とも思える小さな風景が多数存在する一方で歩行空間として危険と考えられる潜在的危険が少ないことから街歩きルートとして正しいと考える。

6.1 まとめ

既存街歩きルート of 検証・評価

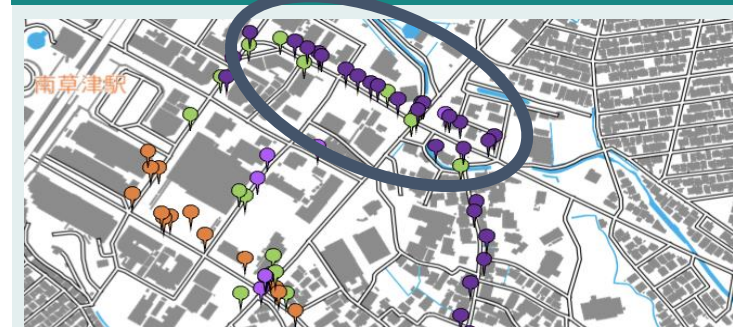
「小さな風景」



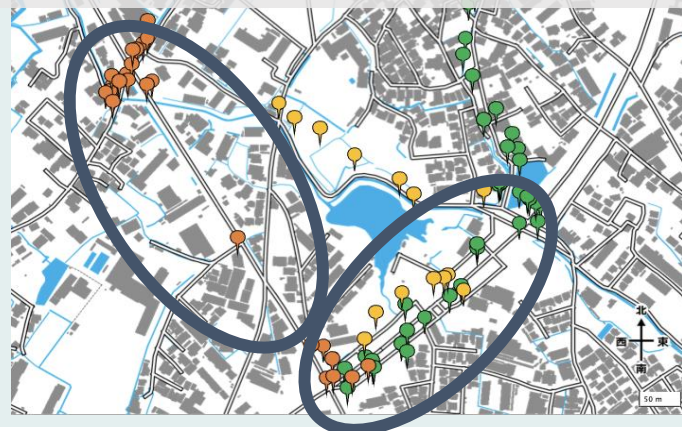
既存街歩きルート



「潜在的危険」



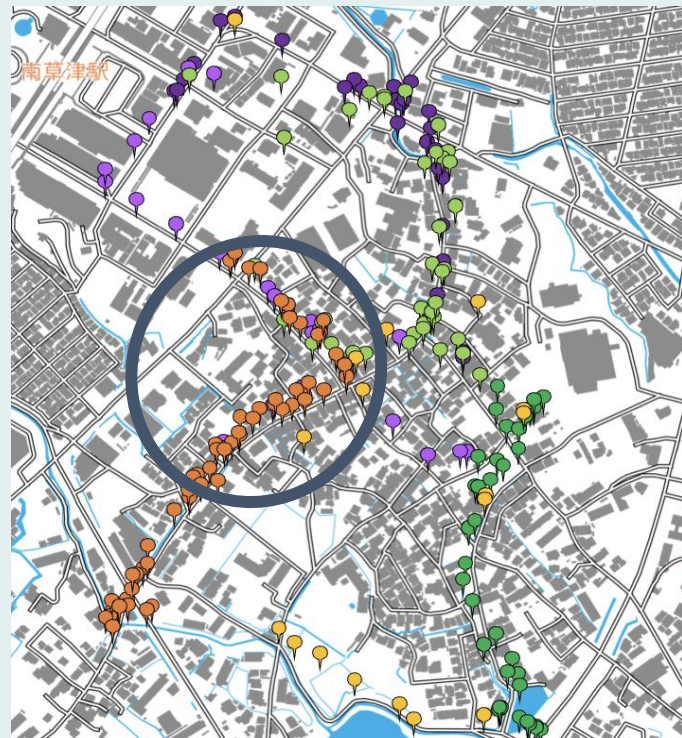
地区を囲むように位置する大通りは交通量が多いこともあり、小さな風景に比べて潜在的危険が多く存在することが確認できるため街歩きルートに含めないほうが望ましいと考える。



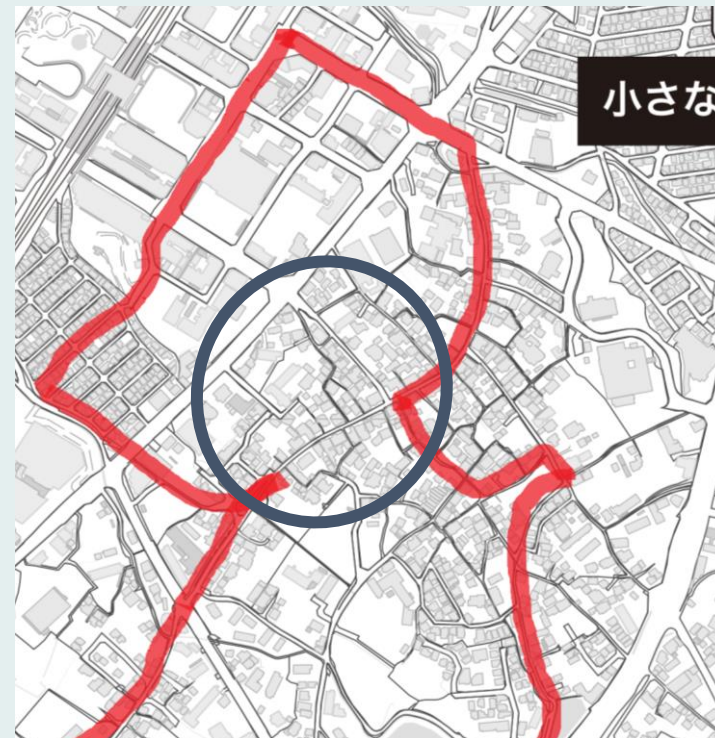
6.1 まとめ

既存街歩きルートへの検証・評価

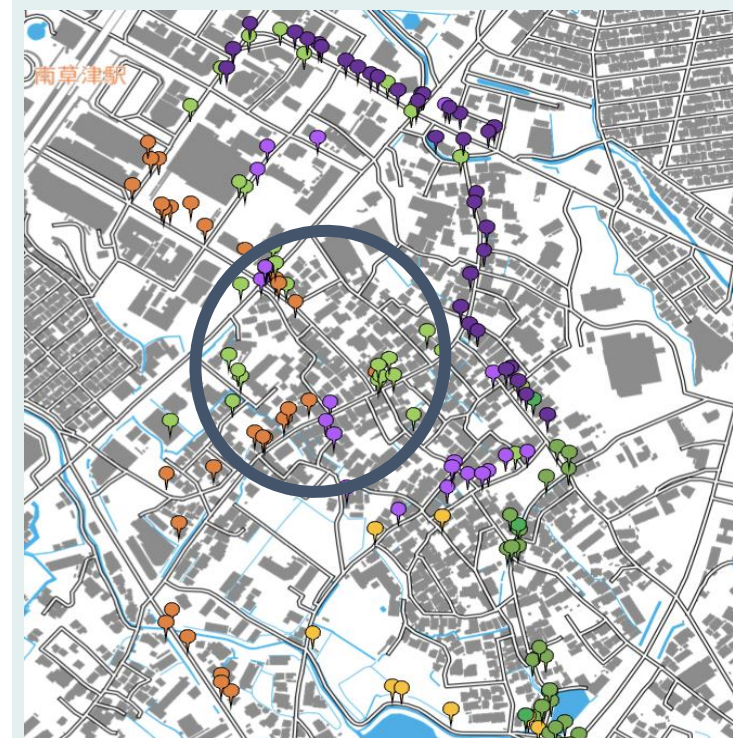
「小さな風景」



既存街歩きルート



「潜在的危険」



既存街歩きルートとされていない○のルートは潜在的危険がほとんど確認されていないことに対し、小さな風景が多数発見されていることから今後の新しい街歩きルートに加えるべき道だと考える。

6.2 今後の活動

既存の街歩きルート进行评估することで、玉川・野路地区のウォーカブルな歩行空間として推奨される道を確認することができた一方、既存ルート以外でルートにするべき道も確認できた。

未だに発見できていない魅力的なルートも考えられるため、それらを見出し、より安全で魅力的な道を新たに提案することを今後の活動とする。